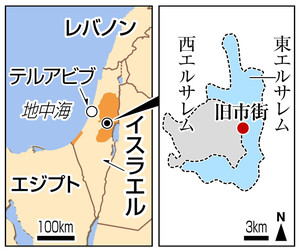
S1 A組 36番 前川 隼輝

エルサレム問題

　エルサレム問題は、最近のトランプ大統領の動向によって耳にすることが多くなってきた問題の一つです。この問題の名前は定期的に耳にすると思うのですが、いまいちその内容については知らないということに気づきました。この問題について知ることが、ニュースなど、報道の内容をより深く理解することにつながればいいなと思います。

1. エルサレム問題とは

*“ユダヤ教，キリスト教，イスラム教の聖地のあるパレスチナの中心都市エルサレムの帰属をめぐる問題。” (\*1)*



**エルサレムという場所**は、左の図(\*4)のように北西にヨーロッパ大陸、南西にアフリカ大陸、東にアジア大陸、という３つが交錯する地域に存在し、３つの宗教の聖地があります。

ユダヤ教の場合、**かつてエルサレム神殿という礼拝の中心地が存在した場所**、

キリスト教の場合、**キリストが教えを説き、処刑され、復活した場所**、

イスラム教の場合、**ムハンマドが一夜のうちに、天使を従え天馬に乗って昇天する旅を体験した場所**、

とされています。(\*3を要約)



エルサレム問題は、３つの宗教の聖地が同一の場所であることや、冬休み明けの学ぶであろうパレスチナ問題が深く関係している複雑な問題です。

余談ですが、東エルサレムには右の写真(\*2)のような ”岩のドーム”があり、ここはイスラム教の聖地とされています。一度は見たことのある人が多いのではないでしょうか。

2. 問題の発端

　エルサレム問題はパレスチナ問題があるが故の問題です。パレスチナ問題は、イギリスがアラブ人とユダヤ人との間で矛盾が生じるような協定を結んだことに起因します。

　まず第一次世界大戦中、アラブ人はイギリス・フランスと協力してオスマン帝国に対抗し自分たちの国を作ろうとしました。その時イギリスは、アラブ人に独立国家の建設を約束するフサインーマクマホン書簡(1915年)をかわしました。

またイギリスはユダヤ人の金融家から戦争で使用する資金を調達するため、将来、ユダヤ人にユダヤ人国家を建設することを認めるバルフォア宣言(1917年)を発しました。

しかし、当然ながらこれら２つは矛盾します。パレスチナという場所は一つしかないのですから、ユダヤ人とアラブ人の意見が両方通ることはありません。パレスチナという同じ場所に２つも国家を作ることはできません。

3. 今日までの動き

　今回私はエルサレム問題について取り上げることに決めましたが、それはパレスチナ問題が原因となっています。そのため、パレスチナ問題について取り上げるのとほぼ同じになってしまいました。

*2. 問題の発端* でも述べたように、エルサレム問題はもともとイギリスが原因です。結局、その後イギリスはユダヤ人・アラブ人ともに裏切り、パレスチナを委任統治領 (*”国際連盟の委任のもとに、戦勝国が敗戦国の植民地などに対して行った統治”(\*5)* が行われた領土) とします。

ユダヤ人はヨーロッパでの迫害、特にナチ党による迫害によりパレスチナへの移住を活発化させました。それにより、もともとパレスチナにいたアラブ人たちとの対立が深まりました。イギリスはこの対立の深まりを手に負えなくなり、国際連合にこの問題の仲介を依頼しました。

国際連盟が提案したのはパレスチナ分割案(1947年)。パレスチナを分割し、ユダヤ人とアラブ人両方が自らの領土を持てるようにしようという案です。ユダヤ人はこの案が提示されたことをきっかけに自分たちの国、**イスラエル**の建国を宣言しました。しかしアラブ人が黙っているはずもなく、イスラエルとの戦争が始まります。これが第１次中東戦争です。補足として、ニュースでよく聞く”ガザ地区”と”ヨルダン西地区”はそれぞれ、この戦争時にアラブ人に協力したエジプト・ヨルダンが攻め込んだ地域のことを言います。

この戦争は結果的にイスラエル、つまりユダヤ人側が勝ちました。これを口実に、国連の案でアラブ人の領土になるはずだった場所は、イスラエルが領土拡大で奪ってしまいました。

　1956年、エジプトのスエズ運河国有化宣言に触発されたイギリスは、フランスとイスラエルと共同で出兵し、第２次中東戦争が始まりました。イギリスにとってエジプトによる宣言は、スエズ運河会社での利益と航行の自由が損なわれるのではないかという恐れを含んだものでした。この戦争はどちらかが勝った、ということはなく、どの国も利益があったりなかったりしました。

　1967年の第３次中東戦争は、イスラエルによるアラブ各国の空軍基地への先制攻撃で始まりました。アラブ側の国々はほとんど対抗することができずに、戦争開始わずか６日後に終了宣言が出されたことから六日戦争とも呼ばれています。

　1973年、アラブ諸国であるエジプトとシリアがイスラエルを攻撃しました。これが第４次中東戦争の始まりです。エジプトとしては、第３次中東戦争でイスラエルに奪われていたシナイ半島という領土の奪還という目的もありました。この戦争は、はじめこそアラブ諸国による奇襲攻撃でイスラエル軍は後退を余儀なくされ、アラブ諸国が勝利したかのように見えましたが、しばらくして準備の整ったイスラエル軍は反撃を始めてなんとか持ちこたえました。この戦争は約１ヶ月で停戦となりました。戦争後は、イスラエルが初めてアラブ側に圧倒されたということで、それを盾にエジプトはイスラエルへシナイ半島返還を求めました。また、アラブ石油輸出国機構はイスラエル支援国への石油輸出禁止・制限を宣言、石油輸出国機構は原油価格を引き上げるなどの動きを見せ、日本をはじめとする様々な国が混乱に陥ったオイルショックが起きました。

　その後、中東戦争によって財政が厳しくなったエジプトは、経済再建にはイスラエルの背後にいるアメリカの力が必要だと判断し、エジプト・イスラエル平和条約を結び、４度に渡った中東戦争は幕を閉じました。しかし問題は解決したわけではなく、イスラエルの支配下にあるパレスチナを開放することを目的とする**パレスチナ解放機構(PLO)**による武力行使が主役となる時代が始まります。

PLOからイスラエルへの攻撃が増していた中、1987年、ガザ地域のパレスチナ人たちが立ち上がり抵抗運動をはじめました。これには子供も女性も参加し、戦車に向かって石を投げたりして抵抗しました。これが第一次インティファーダ(民衆蜂起)です。これをきっかけにパレスチナは世界の注目を集め、1993年のオスロ合意へ繋がり、平和の実現へ一歩を踏み出しました。

しかし現在もパレスチナ問題は解決しておらず、2000年以降も不安定な状態が続いています。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1947 | 国連: パレスチナ分割案 |  |
| 1948 | ユダヤ人: イスラエル建国宣言 |  |
| 1948 | 第１次中東戦争 |  |
| 1956 | 第２次中東戦争 |  |
| 1964 | パレスチナ解放機構 結成 |  |
| 1967 | 第３次中東戦争 |  |
| 1973 | 第４次中東戦争 |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

4. 参考文献

\*1: ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説 - コトバンク

[https://kotobank.jp/word/%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%82%B5%E3%83%AC%E3%83%A0%E5%95%8F%E9%A1%8C-37703](https://kotobank.jp/word/エルサレム問題-37703)

\*2: エルサレムの「岩のドーム」 - Wikipedia

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A9%E3%81%AE%E3%83%89%E3%83%BC%E3%83%A0#/media/File:Israel-2013(2)-Jerusalem-Temple\_Mount-Dome\_of\_the\_Rock\_(SE\_exposure).jpg](https://ja.wikipedia.org/wiki/岩のドーム" \l "/media/File:Israel-2013(2)-Jerusalem-Temple_Mount-Dome_of_the_Rock_(SE_exposure).jpg)

\*3: エルサレム – Jinkawiki

[http://kwww3.koshigaya.bunkyo.ac.jp/wiki/index.php/%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%82%B5%E3%83%AC%E3%83%A0](http://kwww3.koshigaya.bunkyo.ac.jp/wiki/index.php/エルサレム)

\*4: 米、エルサレムを首都認定　イスラエル大使館移転へ – 東京新聞

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/world/list/201712/images/PK2017120602100151_size0.jpg>

\*5: デジタル大辞泉の解説 – コトバンク

[https://kotobank.jp/word/%E5%A7%94%E4%BB%BB%E7%B5%B1%E6%B2%BB-435256](https://kotobank.jp/word/委任統治-435256)

その他: 教科書、タペストリーなど